

無所属 市民派 太田あゆみニュースレター

あゆみのあゆみ

第4歩

発行：みんなと未来へあゆみ隊事務局
〒760-0068 香川県高松市松島町2丁目5-11 電話：080-6385-5430

無関心、やめました。

政治にも、社会にも、人にも。
愛があれば、無関心ではられません。
わたしはこの街が好きだから、
無関心をやめました。



タカマツ マツリゴト

高松で政治を語る。タカマツリゴト!!

2013年参院選。歌うように語り、語るように歌う…選挙フェスという新しい活動スタイルをつくりだした三宅洋平さん(音楽家、NAU 日本アーティスト有意識者会議代表)。インターネット動画サイトから投げかけられる彼のメッセージに、私は涙が止まりませんでした。

今春の統一地方選の意義、選挙に行くことの大切さ、立候補するとはどういうことなのか…語り合うのは三宅洋平と太田あゆみとあなた…会場との対話形式で進めるゆったりトークイベントです。ぜひご参加ください!

日時：4月2日(木) 19:00開演 (18:30開場)
場所：真宗大谷派 福善寺(高松市御坊町1-1)
参加費：500円(大学生以下無料)

3月16日、岡山でおこなわれたトークイベントに参加してきました。「街を盛り上げたい!」という想いをもつさまざまなジャンルの職業の若者が集い、熱く語りました。

西粟倉村でのバイオマスや林業を軸にした地域再生、岡山市内の住民と行政の協働による街おこしなど、わくわくする取り組みがいっぱいでした。

また、3月21日の第4回「みんなとあゆみとおしゃべり会～高松、こんな街にしたいな!」では高松市内の5000軒をこえる空き家の活用法や、耕作放棄地を活かした若者の就農支援、中学校舎の一部で高齢者デイサービスが行われている他県の例など、色々な情報と意見を交換しあって話がはずみました。

「地域の中に今あるもの」を上手に生かし、人と人をつなぎ雇用を生み出していく…お金を地域の中でうまく回していく…みんなの知恵と各地の取り組みなどの情報を集め、この高松でそんな仕組みを作って行きたいですね。



高松で政治を語る。タカマツリゴト!! - 無関心、やめました -

太田あゆみ ●34歳 ●光洋中、大手前高松高、大谷大学文学部国際文化学科卒 ●家業の古本屋勤務 ●2011年、震災や原発事故以降、政治に無関心でいることの怖さを知る。 ●2014年、戦争体験者の対談集「語り伝えて—戦争と家族—」の編集・発行に携わる。 ●11歳の娘を持つシングルマザー。ひとりの母親として責任をもって、戦争や原発事故の不安のない未来を次の世代に手渡したい。

……市民の声は議会でどんなふうに議論されてるの？……

3月19日、高松市議会総務消防委員会を傍聴しました。
伊方原発の再稼働に反対し、自治体として自然エネルギーへのシフトを進めることなどを求める市民の声(陳情)への賛否が議論されました。結果は賛成3、反対6(委員長を除く)で陳情は採択されませんでした。

伊方原発から180キロほどしか離れていない高松市は事故が起きれば大きな影響を受けるのですから、せめて、採択に反対している議員の反対理由を聞きたかった…代表があらかじめ書かれた文を読むという形ではなく、一人一人が自分のことばで反対理由を語って欲しかったです。

「自治体の住民に対する安全確保の責務に基づき住民を原子力災害から守ることを求める陳情」への賛否



原発メーカーの担当者は、この火山帯、地震大国の日本には原発への対応能力がない、と警告していた。やみくもな再稼働は反対。陳情は採択すべき(無所属)。



陳情をぜひ採択すべき！伊方で事故が起これば、早明浦ダムの水は飲めなくなる。自然エネルギーへのシフトを！(市民フォーラム)。



安全対策はしっかりして、判断は国にまかせるべき。陳情の採択には反対(自民)。



今なお多くの人が故郷を離れて暮らしている。伊方の再稼働が急がれているが、立地自治体の判断だけではダメだ。採択に賛成(市民フォーラム)。



陳情に反対。発言なしの委員たち
(自民、同志会、公明)

高松市議会には4つの常任委員会があり、議案に関する実質的な議論はこれらの委員会で行われます。ただ、同日同時刻に開催されるため、傍聴する市民にとっても、自分の所属委員会以外の議論を聞きたい議員にとっても不都合です。

日程をずらせば議会費が増加するとも言われますが、それなら、議会出席手当(1日6,000円~6,500円×40名)を廃止すればいいのです。



古本屋あゆみのおすすめ絵本

「へいわってすてきだね」

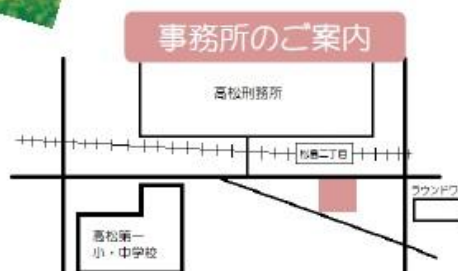
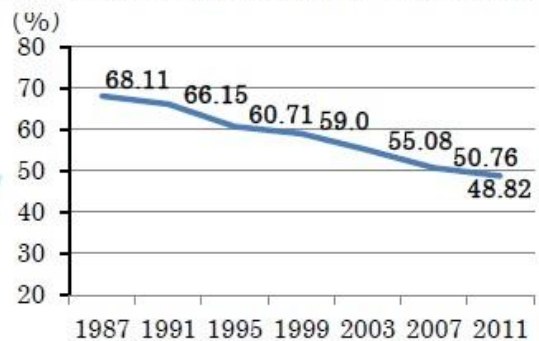
著:安里有生 イラスト:長谷川義史

2013年6月23日、沖縄戦の全戦没者を悼む「慰霊の日」追悼式で、日本のいちばん西にある小学校、沖縄県与那国町立久部良(くぶら)小学校の安里有生(あさとゆうき)くん(当時6歳)が書いた自作の詩に、長谷川義史さんがイラストを描きました。自然の中で、なにげない日常を過ごすこと。こどもの目線で語られる平和は、どんな世界なのでしょう。



どこまで下がる？高松市議選投票率

子育て、介護、街づくり…私たちの「困った！」をどう解決するか…それを議論する一番身近な場が高松市議会。その中身に通信簿をつける機会は4年に一度しか回ってきません。このチャンス、眠らせておいたらもったいない！



公式サイト
ブログも
毎日更新中！

